

特 集

「育てる」から 切れ目なく「育つ」 環境づくりへ

実践現場と教育現場を目指す



WinWinな実習

学生時代に経験する実習は、保健師活動のイメージ化や医療・看護職としての高い倫理観、職業アイデンティティの基礎を育む機会として重要である。これらを育む実習とするためには、実践現場と教育現場が協働・連携して学生が主体的に取り組み、自ら「育つ」環境づくりが必要となる。本特集では、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会報告書」の内容や、実践現場と教育現場が連携・協働して双方にとって WinWin な実習環境を実現している事例をもとに、今後の実習の在り方を探る。

- 「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会報告書」から見る
今後の実習の在り方
- 効果的な実習とするための東京都の配慮と工夫
「保健師学生の実習受入れマニュアル（東京都多摩地域版）」を中心とした公衆衛生看護学実習
- 実習の意義と重点を再考する 杏林大学における取り組みから
- 秋田県立衛生看護学院保健科の地域・実践現場と密着した教育・実習体系
- 大学院における保健師養成のための実習の現状と課題
長崎県立大学大学院公衆衛生看護学コースにおける取り組み
- バトンを渡す頼もしい後輩を現場で育てる 長崎県保健所実習指導者の経験を通して